

## ふるさとは近くにありて守るもの

山口県漁業協同組合蓋井島支店 ふたおい潮さい倶楽部  
松本真由美

### 1. 地域の概要

私の住んでいる蓋井島は、島の面積が 2.35km<sup>2</sup>、周囲 10.4km の響灘に浮かぶ小さな島である。下関市の吉見漁港から定期船蓋井丸が冬場は 1 日 2 往復、夏場は 3 往復運航しており、片道約 35 分で本土と結ばれている。(図 1)

平成 14 年から、島では、新たな地域産業になればとの思いから、オーストラリアの鳥、エミューを飼育している。エミューは背丈が 1.8m にもなるダチョウに似た巨大な飛べない鳥で、エミューからとれるオイルは肌荒れや傷の手当てに効果があると言われており、島ではエミューオイルを新しい特産品として売り出そうとしている。(写真 1)

### 2. 漁業の概要

蓋井島支店の組合員数は平成 19 年 12 月末現在で 43 名である。島の周囲の海は良好な漁場と豊富な水産資源に恵まれていることから漁業が盛んであり、主な漁業種類は、大型定置網、一本釣、採貝藻などで、平成 19 年の水揚げは、約 152 トン、1 億 1,000 万円である。

### 3. 研究グループの組織と運営

ふたおい潮さい倶楽部は平成 10 年にそれまであった漁協女性部を基に立ち上げた組織で、20 代から 70 代までの総勢 22 名の部員が所属している。

主な活動は、島内の環境整備、地域行事への参加、島の情報誌の発行、料理教室等を通じた魚食普及活動等である。

### 4. 研究・実践活動選定の動機

15 年前、島は、嫁がくる島、ベビーラッシュに沸く島としてマスコミで紹介されるぐらい賑わっていた。しかし、当時 160 人以上いた人口は、高齢化や漁業離れで平成 20 年 10 月末現在では 105 人まで減少してしまった。(図 2)

人口の減少、漁業離れで島の活力は低下しがちであるが、そんな島をいつでも守っているのが私たちふたおい潮さい倶楽部である。漁協合併が進む中で、「私たちの漁協はどうなるのだろう。」「私たちは島の女性部であり続けられるのだろうか。」との不安感に襲われた私たちは、漁協女性部をふたおい潮さい倶楽部と名付け、合併で漁協の形態がどうなろうとも「私たちが島を支え続けるんだ。」という気持ちを新たに、漁協という枠を越えて島の活性化に向けた活動を行っていくことにした。

### 5. 研究・実践活動状況及び成果、波及効果

#### (1) 島内の環境整備

お宮の周りや海岸通りの草刈り、清掃作業を積極的に行っている。花壇には季節の花を絶やさないうよう心がけており、島の花壇は四季折々の花でいつも賑わっている。島の花壇は潮風の影響を受けやすく、管理には苦勞しているが、島の人たちからの温かい言葉や、島を訪れる人へのおもてなしの気持ちを胸に、きれいな島づくりに励んでいる。

#### (2)地域行事への参加

運動会や学芸会等の島の行事への参加も大切な活動のひとつである。今年度の運動会は、テレビのクイズ番組でお馴染みの羞恥心をダンスで披露し、小学校の学芸会では千の風になったの楽器演奏と tomorrow という曲を手話を交えながら歌った。

出し物の選曲や振り付け、衣装の作成は全て自分たちで行っている。普段の仕事の合間を縫っての練習は大変だが、私たちの出し物は大変好評で、「おばちゃん達が元気やと島も元気になるっちゃね。」と言ってもらえ、私たちもまたガンバローと元気や力をもらっている。

#### (3)情報発信

潮さい倶楽部では情報発信に係る活動も行っている。高齢化が進むにつれて、一人暮らしのお年寄りが増えるのはどこも同じであろうが、「この人たちに元気に過ごしてほしい。」「楽しい話題を提供したい。」「会員相互の情報交換をしよう。」という思いから始めたのが島新聞である。平成6年に創刊し今年で15年目になるが、発行当初かもめと名付けたこの島新聞は平成8年には潮さいとして生まれ変わり、今も続いている島の人気情報誌である。島の出来事や季節の風景等を載せたものを毎月一回発行し、全世帯に配布している。(図3)

毎月の資料集めや新聞の製作作業は大変だが、一人暮らしのお年寄りから、「毎月楽しみにしちよるよ。」と声をかけてもらえ、こういった言葉を聞くと、「来月のテーマは何にしようか。」「もっと内容を充実させよう。」とさらに意欲が湧いてくる。スタート時の手書の時代からカラーコピー、今ではパソコンへと製作の方法が進歩してきたのも14年間の大切な歴史である。

平成16年、潮さいはひとつの転機を迎えた。島の人たちしか知らなかった潮さいが島の外にも飛び出すことになったのである。潮さいが取り上げられた新聞記事を、下関のFM放送局の方が興味を持たれ、「ラジオで潮さいを取り上げたいので、出演してほしい。」と声をかけてくださったのだ。番組は月に2回の生放送で、蓋井島便りというコーナーで潮さいの内容を紹介している。生放送の番組への出演ということで、4年経った今でも毎回とても緊張しているが、「島の魅力を一人でも多くの人に伝えたい。」との思いで、お話をさせていただいている。(写真2)

ラジオ番組を通じて島の情報を島外へ発信していくことと並行し、直接島の魅力を肌で知ってもらおうと、平成18年から離島体験イベントを開催している。これは、夏に都市部の方々に島にお招きし、漁業体験や料理体験、島めぐりなどを通じて島の良さを知ってもらい、都市住民と島民との交流を深めようとするものである。私たち潮さい倶楽部は、料理教室や調理体験を担当し、毎回とても好評を得ている。(写真3)

#### (4)磯美人パック

平成14年からは、島の季節の海産物を宅配便で発送する磯美人パック(写真4)を倶楽部の有志で開始した。きっかけとなったのは、下関市が開催した離島体験ツアーである。参加者からは、私たちが普段何気なく見ていた景色や、普通に食べていた郷土料理に絶賛の声があがった。しかし一方で、「島の物を欲しいと思っても買うところがない。」「まちに居ても、いつでも島の味を楽しみたい。宅配便はできませんか。」といった意見もあった。

これらの言葉に後押しされて、平成14年4月、「ふたおいの自然を食卓へ」をキャッチフレーズに磯美人パックを開始した。開始当初は知名度が低く、売れ行きもあまりよくなかった。このため、

大阪のしまづくりキャラバンなどの全国規模の離島の集会に参加して磯美人パックを多方面にPRする努力を続けた(写真5)。このような活動を続けるうちに、磯美人パックの取り組みが新聞で取り上げられたり(図4)、口コミで広がったりして、次第に知られるようになった。

そうした結果、開始当初の平成14年の売上金額は約110万円だったが、現在では約180万円と、1.6倍にアップした(図5)。また、開始当初の平成14年は山口県内を中心とした中国地方のお客様が中心だったが、4年後の平成18年には県外への発送が多くなり、磯美人パックが全国各地へと広がっていった(図6)。私たちのPRの成果が、売上金額の増加と発送地域の拡大という形になって表れているものと思っている。また、磯美人パックを始めたことで、これまで市場に出しても安かったサザエやニーナを自分たちの決めた値段で出荷できるようになり、トコロテンやヒジキ、ワカメ、カジメも磯美人パックでは人気商品としてたくさん売れるようになったのも一つの成果である。

## 6. 今後の課題や計画と問題点

### (1)磯美人パックの課題

一見順調に見える磯美人パックだが、課題も残されている。まず第一に、自然が相手であるために、注文された海産物を準備できないときがあることである。磯美人パックに入れる海産物は、注文を受けてから自分で漁に出たり、潮さい倶楽部の仲間や、島の漁師さんに頼んだりして調達している。そのため、その時の天候や、漁のよし悪しに左右されることが多く、お客さまから注文があった海産物をどうしても準備できないときがある。

第二に、さらなる売り上げ増を目指した体制整備である。潮さい倶楽部のメンバーは、それぞれが採貝藻漁業を営んでいるので、その合間を縫って海産物の調達から発送までの作業と、顧客管理等の事務を行う現在の体制では限界がある。

このため、島にあるアワビ中間育成施設を有効活用した蓄養や、若い部員を中心としたIT化による事務作業の効率化によって課題解決を図っていきたいと考えており、今後も喜んで頂くべく、今より多くのお客さまのもとへ磯美人パックをお届けしたいと思っている。

### (2)私たちの未来

平成20年10月、ついに島でも念願のインターネットが使えるようになった。インターネットによる新しい未来に私たちも期待を膨らませている。若い部員が中心となって、島の魅力がいっぱい詰まった蓋井島ホームページを作成しており、今後は、このホームページを島の情報発信の場として有効に活用したいと思っている。(図7)

今、島では、新たに漁家民宿を始めた若い夫婦や、船酔いと戦う新米漁師さん、小学校の先生と漁師さんの奥さんという二役を頑張ってこなしている女性など、若い人たちが島に新しい風を吹き込んでおり、今年は一組の若い夫婦が島にやって来る予定である。

新鮮な風が吹いている島で、私たちふたおい潮さい倶楽部は、これまで自分たちが行ってきた活動に自信と誇りを持って、これからも島の人たちのための活動はもちろん、島の外に向けても磯美人パックやインターネットなどを通じて積極的な活動を展開し、交流の促進に努めていきたいと思っている。

「ふるさとには近くにありて守るもの」そして「自分たちで創るもの」であると信じ、私たちはこれからもふるさと蓋井島を守り創っていく挑戦を続けていく。



図1 蓋井島位置図



写真1 エミュー

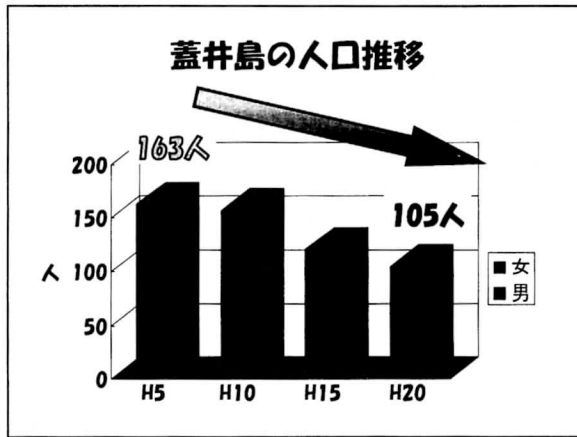


図2 蓋井島の人口推移

朝さし 20年 1月号 No.172

寒くなりました！皆さん風邪には気をつけてね！

風邪の予防には……

- 1…酒かすを、水につけてやわらかくする
- 2…1をよく混ぜて均一にしたら鍋に入れ、温めた牛乳、砂糖を加えて混ぜ、火にかける
- 3…水溶き片栗粉でとろみをつけて、しょうが汁を入れる。出来上がり～♪ 暖まってね！！

学芸会～みんな頑張ったよ～

Happy Birthday

西 昭男	11月15日
吉村 幸夫	11月1日
松本 明	11月22日
藤永 真子	11月4日
島本民江	11月25日
藤永 有美	11月5日
間防 國次	11月25日
榎 敬之	11月8日
村上 伸二	11月26日
内藤 豊和	11月15日
村上 尚枝	11月28日

図3 島新聞朝さし

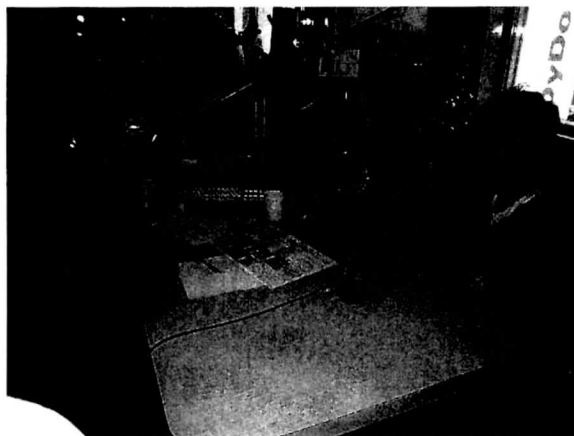


写真2 FM 収録風景



写真3 離島体験イベントでの料理教室



写真4 磯美人パック



写真5 しまづくりキャラバン

# 人気です「磯美人」

下関・蓋井島から新鮮な海産物パック

山口県西の瀬戸が、下関市・蓋井島の島から新鮮な海産物パック「磯美人」が人気を博している。島産の新鮮な海産物を、パックに入れてお届けする。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。



## 海女・中村さん 松本さん企画

### 「島の魅力全国へ」宅配便直送

「島の魅力全国へ」宅配便直送。新鮮な海産物を、パックに入れてお届けする。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。



「磯美人パック」を手にする中村さん(左)と松本さん

「島の魅力全国へ」宅配便直送。新鮮な海産物を、パックに入れてお届けする。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。パックには、新鮮な海産物だけでなく、海藻や昆布なども入っている。

図4 磯美人パックが取り上げられた新聞記事 (平成18年7月13日 毎日新聞)

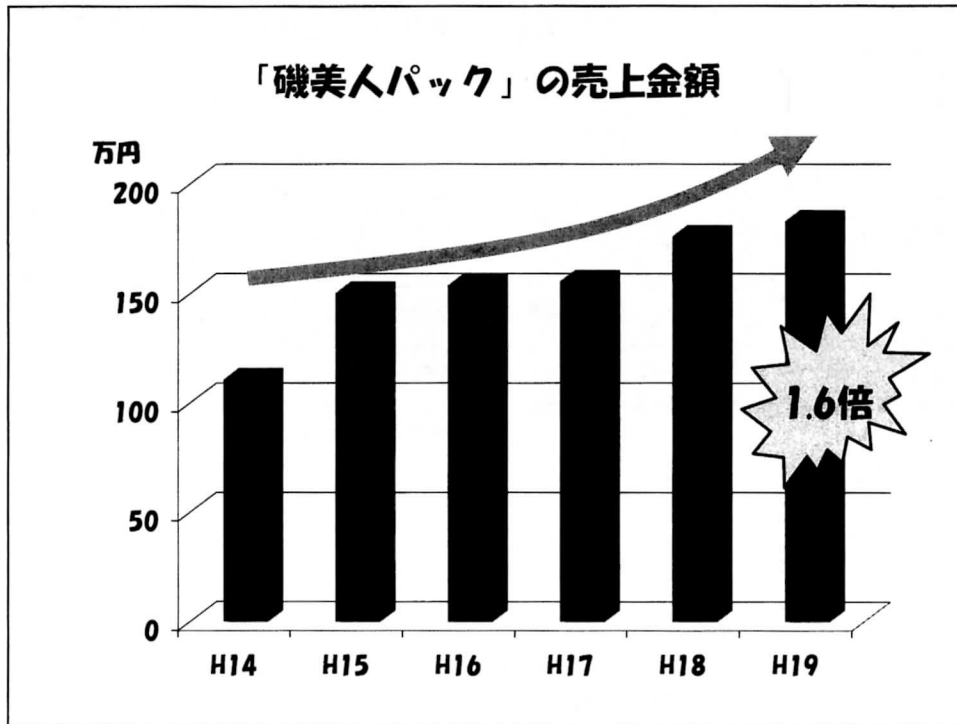


図5 磯美人パック売上金額の推移

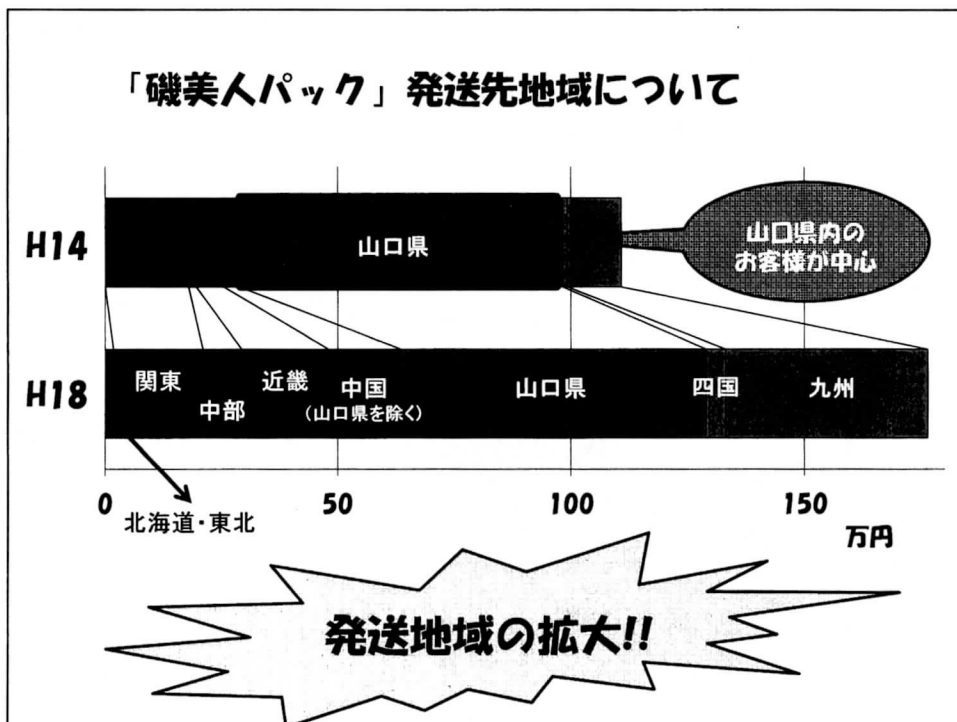


図6 磯美人パック発送先地域の比較 (H14—H18)



図7 蓋井島ホームページトップページ (<http://www.futaoi.com>)